

# 大岡の風4月



令和7年4月7日  
横浜市立大岡小学校  
TEL (711) 0818  
FAX (713) 3563

「出会い」が学びを生み、「学び」が出会いを生む

校長 馬渡 照代

3月19日、「大岡小の大黒柱」として様々な場面でリーダーシップを発揮し、活動を盛り上げ、創り上げてくれた6年生101名が、立派に大岡小学校を巣立っていきました。実行委員を中心に考えた呼びかけは、大岡っ子らしい心のこもったメッセージでした。そして、巣立ちの言葉の中で披露された「Cosmos」「最後のチャイム」は、聴く人々の心に響く素晴らしい歌声でした。中学校でも、大岡小で学び育んだ力を発揮して活躍することを期待しています。

4月7日には、着任式、始業式が行われ、子どもたちは、新しい担任、友達と出会います。新しい環境に多少の不安を感じているかなと思いますが、大岡っ子のことですから、これから始まる学校生活に大いに期待していることと思います。また、入学式では、100名の新入生が「大岡っ子」の仲間入りをします。先週、入学を心待ちにしていた新6年生が、教室の飾り付けや会場の準備などを、心を込めて行っていました。これから始まる学校生活で、6年生は、朝の支度や掃除などのサポートをしながら1年生と交流を深めていきます。1年生の子どもたちには、心強い先輩に支えられながら、楽しく学校生活を送って欲しい、と心から願っています。

さて、本校の重点取り組み目標のひとつに「大岡小学校のよさ（子ども主体の教育、「生活科・総合的な学習」を軸に展開する重点研究と授業改善、地域との深い繋がり、企業とのコラボレーション等）を生かし、持続可能な組織的取り組みによる教育活動を展開する。」というものがあります。昨年度は、特に、「地域・専門家との連携」を生かした取り組みが、多くのクラスで見られました。年間を通して弘明寺商店街や地区センターなどに出かけて取材させていただいたり、発表の場として提供していただいたりと、たくさん関わらせていただき、子どもたちは、多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

また、高学年のあるクラスでは、モーターについて1年かけて探求し、家電メーカーに長年勤めていたOBの方々と深く関わることで、知識や技術はもちろん、「考え方・生き方に触れる」機会をたくさんもつことができました。振り返りでは、どの子も自分の成長を自覚し、生き生きと表現することができていました。その中で、特に印象的だった振り返りを一部抜粋して紹介します。

大岡の時間で、見方が変わったな、と思うことが2つあります。1つ目は、身近にある電化製品への感謝です。子供の頃やモーターに取り組む前は、冷蔵庫はあって当たり前と思っていたけれど、会社の歴史を研究した時、物凄い苦労があってできた物だと知って、感謝しないとな、と思いました。2つ目は、工場などで物作りしてくれている人の偉大さ、凄さです。「スゴカル」の掃除機を製造している映像を見て、物凄い手際の良さでどんどん作っていて、自分にはできないような達人技でした。こういうことも当たり前じゃないんだな、と思いました。以前とは見方が変わって、日々の生活の中で毎回感謝しないとな、と思いました。

成長したことも、2つあります。1つ目は、何度も何度もチャレンジするということです。「考えて、失敗して」を繰り返すのが大事だなと思いました。失敗することに意味があって、それを積み重ねることによって成功が生まれるのではないかなと思いました。2つ目は、人に頼る前に自分でやってみるということです。以前は、できないと専門家に相談してみる、だったけれど、すぐ聞いてしまうと失敗をせずにできてしまい、算数の答えを見て宿題をやると一緒に、理解しなかったら結局自分の力にはならないと思うので、何度もやってみての末に相談するというのがいいと思います。人に頼る前に自分の力でどうにかしてみ、できたらそれでOK、できなかったら相談してみる、というのが身についたんじゃないかなと思いました。

「春は、別れと出会いの季節」と言いますが、子どもたちには、友だちはもちろん、地域の方や専門家など多くの人々と出会い、関わる中で、たくさんのことを学んで欲しいな、と思います。

今年度も、学校教育目標「ともに学びをきりひらいていく子どもの育成」をめざして、教職員一同、全力で子どもたちの指導に当たってまいります。保護者の皆様、地域の皆様には、本校の取り組みにつきまして、益々のご理解・ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。